

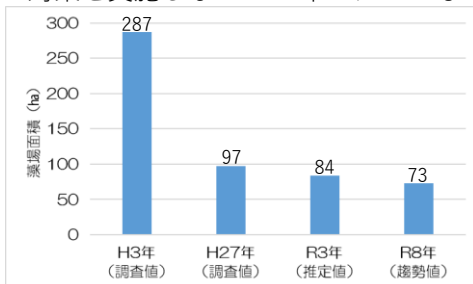
【目的と概要】

- ・水産生物の産卵や幼稚子魚の育成、地球温暖化の防止に貢献するブルーカーボンの蓄積の場として重要な藻場の創造・保全に向けた行動計画
- ・大阪府南部海域において、藻場の構成種として重要な大型海藻であるカジメ・ガラモを創出するため、海底に着底基質(ブロック)を設置
- ・効率的に藻場を繁茂させるため、漁業協同組合による維持管理や海藻のタネの供給等のソフト対策を一体的に実施

現状

○大阪府海域全体の藻場面積の推移

- ・H3年に287haあった藻場がH27年には97haまで減少
- ・R3年時点では84haまで減少していると推定
- ・対策を実施しないとR8年には73haまで減少すると推定



カジメ



ガラモ (ホンダワラ属)

○地球温暖化の影響も受け今後も衰退・減少傾向は継続

〈藻場の減少要因〉

- ・海藻が育つ岩場など着底基質の不足
- ・浮泥の堆積や沈下による既設ブロックの機能低下
- ・窒素やリンなど栄養塩類の減少の可能性
- ・植食性魚類(アイゴ)による食害の可能性



着底基質の不足



浮泥の堆積



食害を受けたカジメ

検討方法

○「大阪府藻場ビジョン策定協議会」の開催

【協議会メンバー】

水産技術センター・大阪府漁連・学識経験者

- ➡ 検討範囲に位置する11箇所の漁業協同組合へのヒアリング結果や、藻場分布状況及び海域環境等を踏まえ、対象エリア・規模・工法等について検討

目標

計画期間：R4～13年度

今後10年間で新たに22haの藻場を創造(南部海域)し藻場面積を95haまで回復させる

【ブルーカーボンへの期待】

藻場を22ha創造すると杉4万本が年間に吸収するCO₂の削減が期待されると試算

対策

○ハード・ソフトが一体となった藻場の創造・保全

①ハード対策による合計11haの藻場の造成

- ・底質、潮流、藻場の生育範囲から、A、B、Cの3地区に分け、着底基質(ブロック)を設置
- ・藻場が確認されている既設ブロック等の近くに設置

地区	A地区	B地区	C地区	設置のイメージ (各地区共通)
場所	泉佐野、田尻、岡田浦、樽井 (R8～11年度予定)	尾崎、西鳥取、下荘、淡輪、深日 (R4～9年度予定)	谷川、小島 (R4～6年度予定)	
設置水深	5m以浅	10m以浅	15m以浅	
ブロックのイメージ				

②ソフト対策による藻場の創造・保全

- ・ハード対策実施箇所に加え海藻のタネ(遊走子)が拡散する周辺海域11haで対策を実施
- ➡ 海藻のタネ(遊走子)の供給(※スポアバッグによる)、母藻・幼体の移植、植食性魚類(アイゴ)の除去、浮泥の除去による藻場の拡大と維持



スポアバッグ(※)



母藻・幼体の移植



アイゴの除去



浮泥の除去

※成熟した成体を網袋等に入れ、重りを付けてブロック周辺に沈設しタネ(遊走子)をブロックへ供給する。

○推進体制(大阪府、関係市町、水産技術センター、漁業関係者、民間企業等)

- ・「ビジョン推進会議」を年1回程度開催し、計画の点検・評価等を実施
- ・国等におけるブルーカーボンの評価手法等の議論を踏まえ本計画への反映を検討